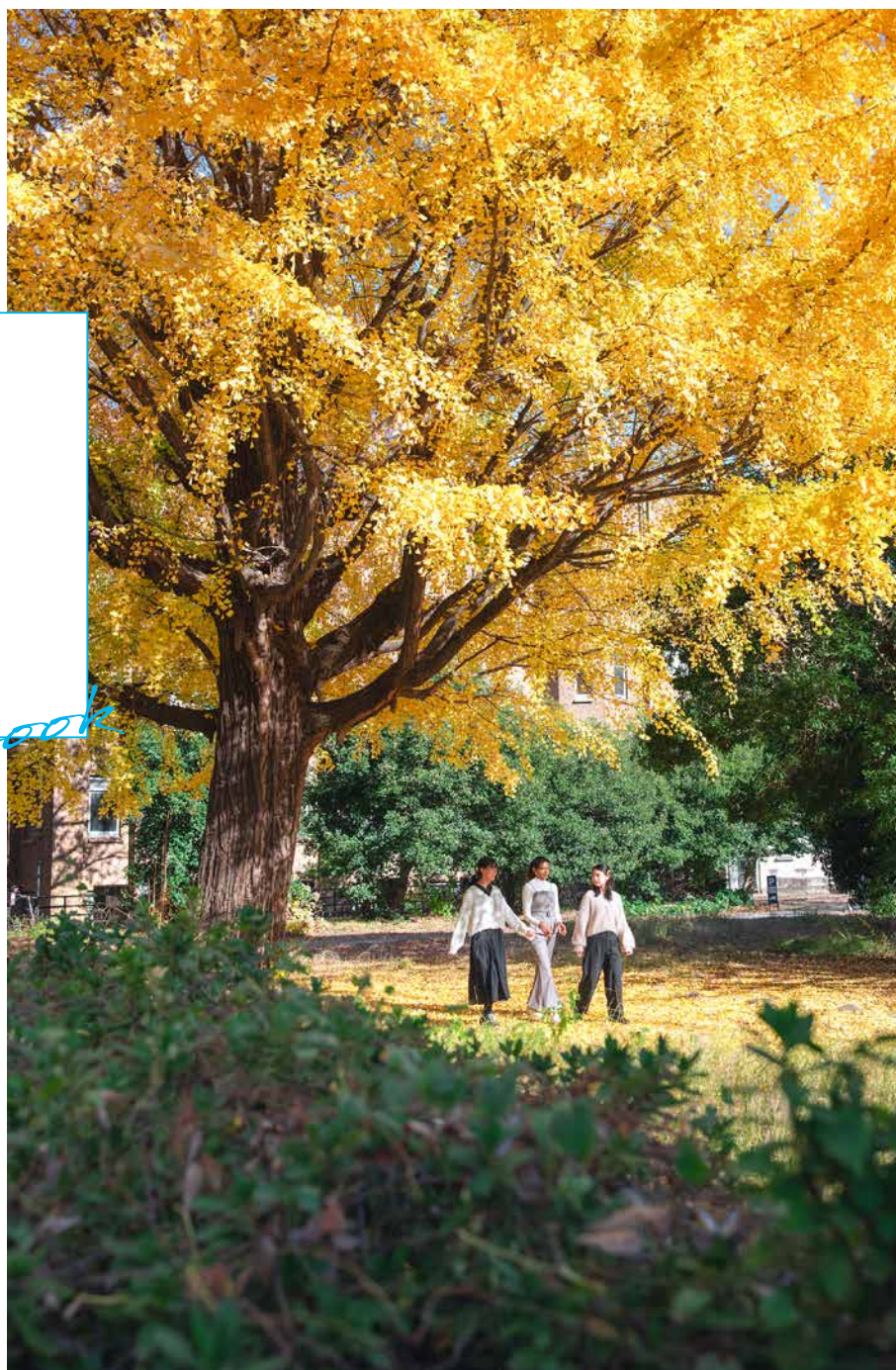




情報を学ぶ場所、東京大学

Guidebook

GRADUATE SCHOOL
of INFORMATION SCIENCE and TECHNOLOGY,
The UNIVERSITY of TOKYO





東京大学大学院 情報理工学系研究科とは

情報科学技術の教育・研究を充実させるために2001年に設立。「コンピュータ科学専攻」「数理情報学専攻」「システム情報学専攻」「電子情報学専攻」「知能機械情報学専攻」「創造情報学専攻」の6専攻で構成されています。情報技術が社会の基盤となる現代において、最先端の研究と応用展開を進めるとともに、学問の枠を超えた新たな知の創出を目指しています。世界をリードする人材の育成にも力を入れ、豊かで安全な社会の実現に貢献することを目的としています。



Contents

- 03 情報理工学系研究科とは
- 04 就職関連データ
- 05 教員から皆さんへ、メッセージ
- 06 *Our Stories*
 - 理学部情報科学科
コンピュータ科学専攻
服部桃子さん
- 08
 - 工学部計数工学科
数理情報学コース
数理情報専攻
吉川 和さん
- 10
 - 工学部計数工学科
システム情報工学コース
システム情報学専攻
細見萌瑛さん
- 12
 - 工学部電子情報工学科
電子情報学専攻
堀内美希さん
- 14
 - 機械情報工学科
知能機械情報学専攻
岩田有季奈さん
- 16
 - 創造情報学専攻
村木乃乃香さん
- 18 本郷キャンパスの歩き方
- 20 情報系という選択
卒業生×在校生が語る
学生時代と、その後のキャリア

このパンフレットは、情報系人材ダイバーシティ推進協賛事業のご支援により作成されています。
文責／情報理工学系研究科男女共同参画委員会

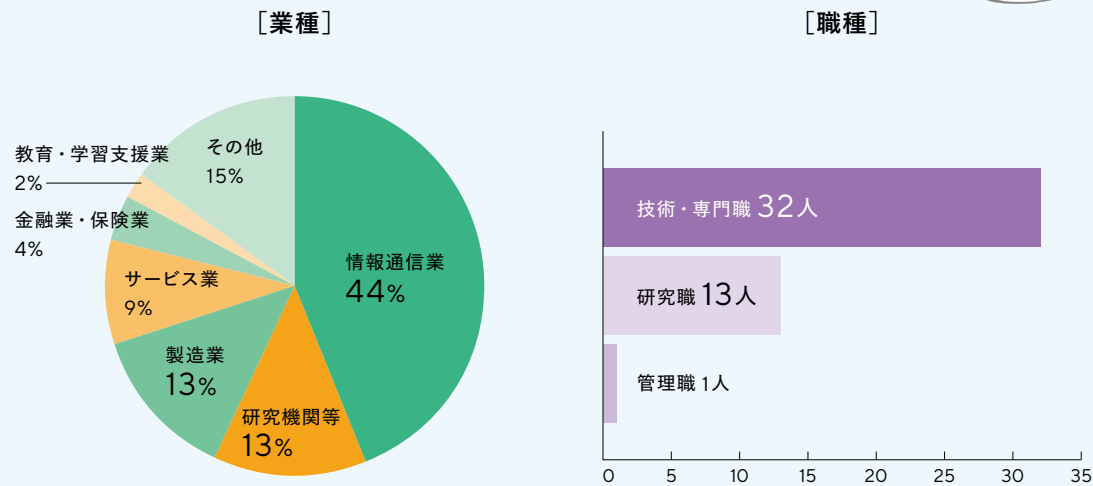
Editor & Writer / Miho Oashi
Designer / Arisa Ohkubo
Photographer / Kosuke Kimura

※学年は撮影時（2026年3月）のものです。

就職関連データ

情報理工学系研究科 2022～2024年卒業生(女性)総計46名 就職先一覧

●卒業生の就職先の業種・職種割合



※2022～2024年の修士・博士合算



●卒業生の最近の主な就職先

【情報通信業】

GMO Flatt Security
Google Japan
KDDI
LINEヤフー
NTTコミュニケーション科学基礎研究所
NTTデータグループ
NTT
Preferred Networks
アマゾンジャパン合同会社
グーグル・クラウド・ジャパン合同会社
ソフトバンク
チームラボ
ディー・エヌ・エー
メルカリ

【製造業】

Armホールディングス
NEC Corporation
ウーブン・バイ・トヨタ
オリンパス
ソニー・インタラクティブエンタテインメント
トヨタ自動車
ナブテスコ
ボッシュ
キーエンス
本田技術研究所

【サービス業】

ゲームフリーク
日本放送協会

【金融業・保険業】

ゴールドマン・サックス証券
モルガン・スタンレー

【大学・研究機関】

産業技術総合研究所
筑波大学
東京大学
北海道大学

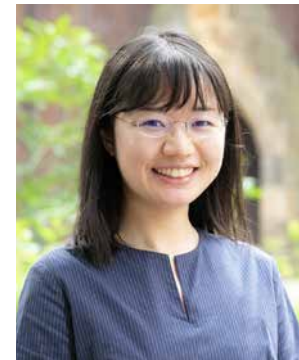
【官公庁】

金融庁
総務省



教員から皆さんへ、メッセージ

コンピュータ科学専攻



谷中瞳 准教授

出身校：豊島岡女子学園高等学校

得意・不得意より、 広い好奇心が大切

自然言語処理と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？「数学やプログラミングが得意でないと研究できないのでは」と感じる人もいるかもしれません。人間の言葉を計算するしくみを考える自然言語処理の研究は、数学やプログラミングだけでなく、言葉について考える国語や、脳について考える生物と、いろいろな科目が関わっており、科目の得意不得意よりも幅広い好奇心が大切です。ぜひ一緒に自然言語処理の研究をはじめましょう。

システム情報学専攻



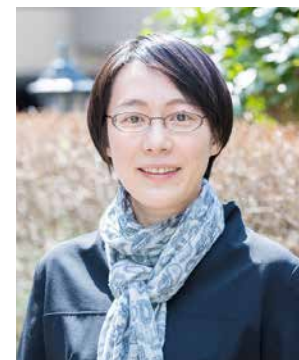
三河祐梨 助教

出身校：東京都立西高等学校

自分の技術への関心に 真正面から向き合えた

興味の赴くままに研究に打ち込み、自分なりの技術を形にしていける経験は、かけがえのないものです。そうした学びの中で人とのつながりにも恵まれ、結果として人生そのものが豊かになっていくことを実感してきました。私自身、東京大学への進学や情報系分野を選ぶことについて、当初は両親から反対を受けました。しかし、研究に真摯に向き合い、充実した日々を送る姿を見て、次第に理解と応援を得られるようになりました。

知能機械情報学専攻



二瓶美里 教授

学問や技術を通して、 人間の根源的な問いを 追求できる

大学での学びには、専門的なことを学ぶ楽しさに加えて、分野を超えた学際的な取り組みを通して、学問や技術が社会や人の暮らしとどのように繋がっているのかを知る楽しさもあります。そこには、技術を通して人間とは何か、知能とは何か、という根源的な問いを探索する面白さもあります。正解やロールモデルが決まっていないからこそ、今を生きている実感を得られたり、想像もしなかった出会いやチャンスに気づくはずです。

数理情報学専攻



五十嵐歩美 准教授

出身校：千葉県立東葛飾高等学校

最先端の研究が 生まれる場所です

東京大学は、知的好奇心にあふれた人々が集う魅力的な場所です。私の所属する数理情報学専攻では、最適化理論、機械学習、暗号理論など、数学を基盤として社会課題にアプローチする研究が行われています。多様な分野の専門家と学生が互いに刺激し合い、日々、最先端の研究が生まれています。興味を持ったことを深く探究し、自ら道を切り拓きたい学生にとって、最高の環境が整っています。

電子情報学専攻



山肩洋子 教授

出身校：福岡県立三池高等学校

どうか安心して 入学してください

私は九州の田舎で育ったので、東京大学には少し“怖い”印象を持っていました。特別な人が集まる特殊な世界に思えるかもしれません。けれど教員として学生を見ると、みんな驚くほど“普通”です。もちろんみんな優秀ですが、悩んだり失敗したり、友達に助けられながら成長していく姿は、どこにでもいる若者と変わりません。そして好きなことに思う存分挑戦できる環境が整っています。どうか安心して、入学してください。

創造情報学専攻



ラルスン マリア 特任助教

学びが、 強さと自由を育てます

心から楽しいと思えることに取り組み、将来に対して高い志を持って進むことは、人生に強さと自由をもたらします。不安を感じる瞬間や、その場に自分一人しか女性がいなと感じることもあるかもしれませんが、けれど、粘り強く自分で考えながら歩み続けていけば、安心できるコミュニティや良き指導者、そして自分の居場所は必ず見つかります。ここでは、確かな技術的基礎とともに、自信と困難に向き合う力を育てています。



Our Stories / 先輩にインタビュー!

MAJOR:
理学部情報科学科
コンピュータ科学専攻

学部時代にインターンした
企業に就職しました

NAME: はっとり もも こ
服部桃子さん
(2020年学部・2022年修士卒)
COMPANY: Google Japan
POSITION: ソフトウェアエンジニア
HIGH SCHOOL: 桜蔭学園 桜蔭高等学校

撮影場所…工学部2号館廊下

Q1 仕事内容について教えてください

A. GoogleでChromeOSの開発

ChromeOSは、Googleが開発するChromebook向けのOSです。私はその中でも、ChromeOS上でAndroidアプリを動作させるための基盤を開発するチームに所属しています。デバッグ(バグを修正するプロセス)の最中に新しい発見や学びがあり、面白みを感じています。

は週3回だけ出社し、残りはリモートワークにしている人が多いです。こうした働き方の自由さもあり、最終的にGoogleへの就職を決めました。また、社内転勤の制度も整っており、履歴書を提出して希望を出せば、別のチームや拠点に挑戦することも可能です。自分の関心やキャリアに応じて、柔軟に環境を変えられる点も魅力の一つだと感じています。私は今年、イギリスのロンドンオフィスに転勤することが決まりました。



Googleの社員食堂は充実しています。ビュッフェ形式で、社員であれば無料で食事することができます。

Q2 就職の経緯は?

A. インターンがきっかけ

『Google STEP』は、コンピュータサイエンス分野の少数派グループを対象としたプログラムで、面接に合格するとGoogleでインターンを経験できる仕組みです。私は学部2年生のとき、情報系に進学する直前にこのプログラムを受講し、運よくインターンの機会を得ることができました。インターンを通して感じたのは、Googleののびのびとして自由度の高い文化です。出勤時間は比較的柔軟で、現在

2023年4月にパリで開かれた国際学会に参加しました。こちらは会場となったソルボンヌ大学の入口付近の写真です。



Q3 東京大学を選んだ理由は?

A. 医学部進学以外の道として

東京大学では、入学後すぐに学部が決まるのではなく、約2年間幅広く学んだうえで、2年次に学部・学科を選ぶ進学選択制度があります。大学進学の時点では、学びたい分野が明確に定まっていなかったため、この制度に大きな魅力を感じました。また、全国から優秀な学生が集まる環境で学べる点にも惹かれていました。母は「手に職をつける」という意味でも私に医学部へ進んでほしいと考えていたようで、私自身も幼い頃は医師になるのだろうと思っていました。ただ、実際に大学進学を考える段階になると、医学系の分野にはあまり強く惹かれませんでした。そこで、成績的にも合格圏内だった理科一類に進学することを決めました。

Q4 学科を選んだ理由

A. プログラミングに興味を持ったから

高校1年生のときに学校で参加したGoogleのオフィスツアーが、情報系に興味を持つ最初のきっかけでした。当時はプログラミングについてほとんど知りませんでしたが、大学に進学して理科一類に入ると、周囲には当たり前のようにプログラミングができる人がいて、その姿に刺激を受けました。統計の授業でプログラミングを使った課題に取り組んだことをきっかけに、大学1年のうちから独学で学び始め、次第に情報系への進学を意識するようになりました。

Q5 東京大学に進学して良かったことは?

A. 刺激的な環境で学べたこと

優秀な学生が多く、日々刺激を受けられる環境だったことは、とても良かったと感じています。物理やプログラミングを得意とする人など、身近に「すごい」と思える存在がいることで、自分自身の学びへのモチベーションにもつながりました。また、幅広い興味を持つ人が集まっており、これまで知らなかった分野を知る機会もありました。進学した情報科学科のカリキュラムも充実しており、学ぶ内容の面でも満足しています。学科の卒業生に情報系分野で活躍している方が多いことも励みになりました。

Q6 後輩へのメッセージをください

A. 興味のあることにも目を向けてみてください

受験勉強に多くの時間を費やしていた分、大学で何を学びたいのかを考えたり、少しでも興味のあることに触れたりしておけばよかったと感じることがありました。大学には、さまざまな分野で活躍している人がたくさんいます。早い段階から「好きなこと」や「興味のあること」を意識しておく、入学後の選択肢が広がります。受験勉強と並行して、気になったことにもぜひ挑戦してみてください。

近況を教えてください!

#ミュージカル



5年ほど前からミュージカル鑑賞にハマっています。去年は劇団四季のミュージカルをよく観ました。今年は宝塚を観に行きたいです。

パリで泊まったホテルの近くにあったリュクサンブール公園です。あいにく空はどんよりしていますが、お花がとても綺麗に咲いていました。



#パリの公園



#中国のお菓子

会社の他のチームに所属する中国人の友達とお互いに言語(中国語、日本語)を教え合っているのですが、その方からもらった中国のお菓子です。



撮影場所…工学部1号館前

MAJOR:
工学部計数工学科
数理情報工学コース
数理情報学専攻

大学院での研究を
生かせる仕事に就きました

NAME: よしかわ ひより
吉川 和さん
(2013年学部・2015年修士卒)
COMPANY: 富士通株式会社
POSITION: 研究
HIGH SCHOOL: 静岡県立清水東高等学校

Q1 仕事内容について教えてください

A. 人工知能分野の研究開発

大学院ではグラフのような構造をもつデータ上のアルゴリズムを研究しており、専門性を活かせる点から、知識グラフに力を入れている富士通を志望しました。学会や研究会では、社内外の研究者や利用者の方と話す機会があり、さまざまな分野の考え方に触れることで、研究の視野が広がりました。新しい知識を学び続けることが求められるため、専門性を高めていくことができる環境だと思います。また、自分の研究が製品やサービスとして実際に使われる可能性がある点に、やりがいを感じています。

Q2 現在の働き方は？

A. テレワークが多く、休暇も取得しやすい

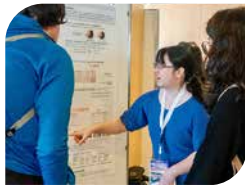
普段は基本的に自宅からリモートで働いています。土日休みや有給休暇も計画的に取得でき、研究に集中できる体制が整っています。企業の研究所ではありますが、雰囲気は大学に近く、アカデミックな研究に関心を持つ研究者が多い点も特徴です。

Q3 学生時代の研究内容は？

A. 数値シミュレーションとアルゴリズム研究

学部時代は数値計算を用いた研究を行っていました。具体的には、血管内を流れる血液の動きを、数値シミュレーションによって解析する研究です。物理現象を数式で表し、計算によって解く面白さを学びました。修士課程では、数値最適化を専門とする研究室に所属し、アルゴリズムの研究に取り組みました。研究の中で、「学習した内容を次の学習につなげていく」仕組みに関心を持ち、教育への応用について指導教員に相談していました。

社会人博士として行った学会発表の様子。



Q4 東京大学を選んだ理由は？

A. 学びたいことが定まっていなかったから

進路に迷っていた時期に、高校の先生から東京大学を勧められたことがきっかけです。やりたいことが明確に定まっていなかった当時の自分にとって、東京大学の進学選択制度は大きな魅力でした。東京大学では、入学後の約1年半を教養学部で過ごし、さまざまな分野の講義を受けたうえで専門を選ぶことができます。特定の分野に早く絞るよりも、学びながら考えたいという思いが強く、そうした選択ができる点から、東京大学への進学を決めました。

Q5 学科を選んだ理由

A. 数学を社会に生かせる点に魅力を感じたから

もともと音声信号処理に関心があり、そこから計数工学科に興味を持つようになりました。進学選択において、最終的に数理コースを選択したのは、数理最適化など、数学の知識を社会の課題に直接生かす方法を学べる点に魅力を感じたからです。

Q6 東京大学に進学して良かったことは？

A. 学業と部活動の両方に打ち込むことができた

優秀で刺激的な同級生や先生に出会い、さまざまな考え方に触れられたことは、本当に良い経験でした。学生生活では、運動会の弓術部に所属し、部活動を中心とした生活を送っていました。高校時代から弓道続けており、大学に

入ってからも続けたいと考えていました。学業と部活動の両立を通して、充実した大学生活を送ることができたと感じています。



弓術部に所属し、公式の試合などにも出場。写真は高校時代のもの。

Q7 情報系の魅力は？

A. 数学を現実社会の課題に生かせる点

私が所属していたコースでは、数学を現実の問題に応用する「応用数理」を学びました。こうした考え方は実社会でも幅広く使われており、就職後も学んだ知識を直接生かすことができます。また、在学中に数理による問題解決の考え方の基礎を身につけられたことは、その後に異なる分野を学んだり、論文を書いたりする際にも大きく役立っています。

Q8 後輩へのメッセージをください

A. 高校時代の経験は、あとから生きてきます

高校までに興味を持って力を入れて取り組んできたことは、何年も経ったあと、思いがけない場面で役に立つことがあります。ぜひ、今だからこそできることに全力で取り組んでみてください。

近況を教えてください！

#ビリヤニ食べ歩き



インド料理のビリヤニにハマっています。リモートなので、休日に同僚と約束をしてビリヤニが食べられるお店を巡っています。

#ポケモン



ポケモンが好きで、ぬいぐるみを集めています。ゲームとして遊ぶのも、キャラクターとして親しむのも、どちらも魅力に感じています。

#志摩スペイン村

昨年夏に開催された「ポケモン課外授業 in 志摩スペイン村」へ行った時の写真です。園内の至るところにポケモンがいました。





MAJOR:

工学部計数工学科
システム情報工学コース
システム情報学専攻

撮影場所…工学部6号館前

NAME: ほなみもえ
細見萌瑛さん
(学部4年)
HIGH SCHOOL: 長崎県立長崎東高等学校

Q1 卒業研究について教えてください

A. 脳の状態と知覚の関係を探る研究

卒業研究では、脳の状態と知覚の関係について研究しています。私たちは、視覚や聴覚などの弱い刺激が与えられたとき、それを認識できる場合とできない場合があります。こうした違いには、アルファ波と呼ばれる脳内のリズムが関係していると考えられています。そこで、被験者の方に協力していただき、刺激が「見えたか」を答えてもらう心理実験を行い、知覚と脳活動の関係を調べています。大学院では、テラヘルツ波を利用した非接触計測や通信について研究したいと思っています。

Q2 大学院進学のかっけは？

A. 就職か進学か、じっくり考えてみた

大学院進学については、正直とても悩みました。研究にしているのか自信がなかったことや、「周りが進学するから」という理由だけで進みたくなかったからです。研究には成果が出る喜びがある一方、思うように進まない苦しい

時期もあります。そうした点も含めて自分なりに向き合い、最終的に大学院進学を選びました。

Q3 東京大学を選んだ理由は？

A. 学ぶための環境が整っているから

一番の理由は、進学選択制度があることです。高校生の時点では工学部に進みたいという思いはあったものの、学科まで具体的に決めきれてはいませんでした。東京大学なら、入学後に幅広く学び、そのうえで専門を選べる点が、自分には合っていると感じました。また、中学生の時に東京大学のキャンパスを訪れたことも印象に残っています。整った環境やきれいな校舎を見て、「ここで学びたい」と素直に思いました。京都大学や九州大学など、進学可能性がある大学も実際に見学しましたが、学ぶ環境として魅力を感じたのが東京大学でした。

Q4 学科を選んだ理由

A. 人間に関わる工学と数学への関心から

進学選択を考える2年生の春の時点では、まだ進む学部・学科について迷いがありました。さまざまな学部・学科のガイダンスに参加する中で、計数工学科の「物理世界と情報世界をつなぐ」という言葉に強く惹かれていきました。研究内容も、触覚や脳科学、人間拡張工学など、人間と直接関わるテーマが多く、興味を持てるものでした。また、数学が好きだったことも、進学を決めた理由の一つです。

Q5 東京大学に進学して良かったことは？

A. さまざまな人と出会えたこと

周囲の環境が良いことは、東京大学の大きな魅力の一つだと感じています。授業や研究で行き詰まったときでも、相談すれば親身になって一緒に議論してもらえる雰囲気があり、学部生のうちから、わからないことをそのままにせず、深く考えることができます。入学前は、テレビに出てくるような“東大生”ばかりなのではないかというイメージを持っていました。しかし実際には、趣味や日常の話を気軽にできる、ごく普通の友人関係も築くことができました。一方で、ルービックキューブで日本記録を持つ人や、クイズ番組に出演している人など、突出した才能を持つ人も出会いました。

Q6 情報系の魅力は？

近況を教えてください！

#ドライブ



車の運転も好きです。旅行の際には車を走らせることもあります。休日にドライブに行くトリフレッシュできます。

#国内旅行



旅行が趣味で、大学生の間に47都道府県中39都道府県を訪れました。

授業でプロ棋士の先生に将棋を教えてもらう機会があり、それ以来将棋を指しています。趣味の一つとして長く続けたいと思っています。

#将棋



Q7 後輩へのメッセージをください

A. 充実した学生生活が待っています

東京大学での生活は、とても充実しています。勉学以外にも、「ピアノの会」というサークルに所属したり、授業をきっかけに将棋を始めたり、スウェーデンの大学に体験入学したりと、さまざまな経験をすることができました。大学受験は大変だと思いますが、ぜひ自分の目標に向かって頑張ってください。

短期留学時には、首都ストックホルムにある観光スポットへも。



スウェーデンの帰りにイギリス・ロンドンに立ち寄り、初めての海外一人旅をしました。



MAJOR:

工学部電子情報工学科
電子情報学専攻

仕事と育児
どちらも楽しんでいます

NAME: ほりうち み き
堀内美希さん
(2013年学部・2015年修士卒)
COMPANY: ゴールドマンサックス・ジャパン・サービス株式会社
POSITION: エンジニア
HIGH SCHOOL: 広島県立呉三津田高等学校

撮影場所…工学部3号館内

Q1 現在の働き方は？

A. 福利厚生充実で、仕事と子育てを両立

証券会社の電子取引部門でシステム担当として働いています。コロナ以前からリモートワークが可能な環境は整っており、必要に応じて利用できますが、基本的には出社しています。福利厚生は非常に充実していて、社員専用の託児所があるほか、病児保育を手配するための補助も受けられます。子どもが小さい頃には、こうした制度にかなり助けられました。家族の医療費を幅広くカバーしてくれる点も心強いです。仕事と家庭の両立は決して簡単ではありませんが、働き方の自由度は高く、正当な事情がある場合には在宅業務や、早く退勤することを含め、柔軟に調整できます。チームは香港やシドニー、東京など複数の拠点に分かれており、皆異なるタイムゾーンでお互いにカ

Linux Foundationのスタッフリーダーをやっている、毎年、カンファレンスの運営を手伝っています。



バーをし合って業務を回しています。また、香港やシンガポール、ニューヨークなど、世界のさまざまな都市に出張に行く機会も多いです。



外資系なので同僚は国際色豊か。出張先で同僚たちとバーに行った時の写真です。

Q2 東京大学を選んだ理由は？

A. 進学選択制度に惹かれて

高校生の頃は自分のやりたい分野がはっきり定まっていなかった。そのため、進学選択で学部を決められる制度がある東京大学に魅力を感じました。また、学ぶ環境のレベルの高さも進学理由の一つです。当初は、親の勧めもあり、薬学部に進むことも考えていましたが、もともと物を作ることが好きで、ロボットを作りたいという思いもあり、最終的に工学部を選びました。

Q3 学部時代の放課後は何をしていましたか？

A. サークル活動やアルバイト

学部1年生の頃は軽音サークルに所属していたので、学生会館によく通っていました。大学生らしくアルバイトもしており、家庭教師や飲食店など、さまざまな職種を経験しました。その後、IT系のベンチャー企業でもアルバイトをし、学びと実務のつながりを実感することができました。

Q4 東京大学に進学して良かったことは？

A. 良い意味で“普通”の大学生活を過ごせた

総じて、東京大学に進学して良かったと感じています。入学前は、勉強一筋の人ばかりなのではないかという印象を持っていましたが、実際にはそうではなく、多くの学生がそれぞれに充実した大学生活を送っていました。地方出身の私にとって、東京大学はどこか謎に包まれた存在で、「特別に優秀な人たちが集まる場所」というイメージがありました。テレビに出てくるような人や、あまり他人と関わらないタイプの人が多いのでは、と想像していた部分もあります。ですが、実際に入学してみると、一番のギャップは、良い意味で“普通の人が多い”ということでした。地元や高校時代の友人と比べても、大きな違いはありませんでした。

Q5 情報系の魅力は？

A. 情報系の学びは、就職に強い

ITスキルを身につけておくと、就職先に困ることは少ないと感じています。IT企業だけでなく、金融業界をはじめとするさまざまな分野で、IT人材を求めるポジションがあります。私自身、就職活動では大きな苦勞を感じることはなく、過度に心配することはありませんでした。エンジニアにもさまざまなタイプがありますが、情報系で基礎をしっかり学んだ人は、どの分野でも活躍できる可能性が高いと思います。今では、どんな業界でもITは欠かせない存在です。

Q7 後輩へのメッセージをください

A. 後悔のないよう、全力で取り組んでください

大学生になると、学べることも挑戦できることも増え、自分次第で世界はどんどん広がっていきます。受験勉強は大変に感じるかもしれませんが、その先には、新しい仲間や多くの経験が待っています。ぜひ後悔のないよう、今できることに全力で取り組んでください。応援しています！

近況を教えてください！

#息子と一緒に香港出張



まだ息子が小さかった頃、一緒に香港の出張に行きました。子連れでも受け入れてもらえる環境です。



#ウィンタースポーツ

会社のメンバーとスノーボードやスキーをしに雪山へ。この行事も毎年恒例になっています。



#子どもたちと音楽

最近は吹奏楽団体に参加したり、娘の幼稚園のコーラス部で合唱を楽しんだりしています。写真は、息子（左）とその友人とのアンサンブルの様子です。



撮影場所…工学部2号館前

MAJOR:
機械情報工学科
知能機械情報学専攻

IT知識を持つことで
将来の幅が広がりました

NAME: いわた ゆ き な
岩田有季奈さん
(2023年学部・2025年修士卒)
COMPANY: **株式会社NTTデータグループ**
POSITION: **開発**
HIGH SCHOOL: **北海道札幌西高等学校**

Q1 仕事内容について教えてください

A. 機械工学から会計システムの世界へ

社内の会計システム開発を担当しています。大学では機械工学を専攻し、ロボットなど物理的な対象を扱ってきたため、会計システムという分野に配属された当初は戸惑いがありました。これまで学んできた機械工学や情報工学が自然現象や物理法則を扱う学問であるのに対し、会計は法律や社会の仕組みなど、人が決めたルールを理解する必要があります。簿記を学びながら、その知識を会社のシステムにどう落とし込むかを考えることは、新しい分野への挑戦であり、自分にとって大きな刺激になっています。

Q2 現在の働き方は？

A. ライフステージに応じた働き方

私の所属部署は出社が中心で、現在はほぼ毎日出社していますが、他部署ではリモートワークと出社を組み合わせハ

イブリッドな勤務形態の人も多くいます。年次が上がるにつれて、育児や家族の介護などの事情に応じてフルリモートで働く社員もおり、全社的にワークライフバランスを大切にする風土があると感じています。また、若手社員向けの家賃補助制度もあり、生活面での支えになっています。

Q3 東京大学を選んだ理由は？

A. 医学部志望から進路を見直して

最初から東京大学を志望していたわけではなく、高校2年生までは医学部や地元の北海道大学への進学を考えていました。高校1年生のときに医学部生の話を聞く機会があり、自分の適性や学びたい内容が医学部とは合わないと感じたことが、進路を考え直すきっかけになりました。また、大学進学を機に北海道の外の環境も見たいと思うようになり、道外の大学を調べる中で、東京大学の進学選択制度を知りました。高校生の時点で専門を決めきれなかった自分にとって、入学後に幅広く学びながら進路を選べる点に魅力を感じ、東京大学を志望しました。

Q4 学科を選んだ理由

A. 手を動かす学びに惹かれて、機械系へ

化学系は理系の中でも比較的女性が多く、身近な友人や知人が多く進学していたことから、当初は化学系への進学を考えていました。しかし、進学選択のガイダンスで機械系学部の講義内容や演習を知り、手を動かしながら学ぶ演習が多い点に強い魅力を感じるようになりました。あわせて、昔から形のある機械や物を作ることに憧れていたことを思い出し、進学選択の学部希望提出締め切りの約1週間前、機械情報工学科を志望することを決意しました。

Q5 東京大学に進学して良かったことは？

A. 研究環境と人に恵まれていたこと

東京大学では、さまざまな面でチャンスをつかむ機会が多く与えられていると感じています。特に研究環境は非常に恵まれており、「東京大学に所属する」という責任は伴いますが、その分、多くのアドバンテージを得られる環境だと思います。また、周囲に優秀で好奇心の強い人が多いことも大きな魅力です。勉強だけでなく、趣味やスポーツなど、それぞれの分野で関心を深め、貪欲に知識や経験を吸収していく人たちに囲まれることは、とても刺激的で貴重な経験でした。さらに、留学生の比率も高く、さまざまな国籍の学生と交流できたことも、大学生活を豊かにしてくれた要因の一つです。

Q6 情報系の魅力は？

A. 将来の選択肢が広がること

現在はあらゆるシステムの基盤にIT技術が使われており、ITの知識は分野を問わず生かすことができます。私自身、今は会計システムに携わっていますが、大学でソフトウェアに関わっていた経験が、そのまま仕事に生きています。

Q7 後輩へのメッセージをください

A. 一人で抱え込まず、周りも頼ってみてください

受験生の皆さんは、誰しも不安や悩みを抱えていると思います。特に、地方から東京大学を目指す方や女性の方は、少数派になることで、その気持ちを一人で抱え込んでしまうこともあるかもしれません。自分でじっくり考え抜くことも大切ですが、家族や友人、学校の先生など、身近で支えてくれる人に相談し、別の視点を得ることも学生時代にはとても重要だと思います。受験勉強を通して積み重ねた努力は、その後の人生で必ず大きな力になります。ぜひ最後まで諦めず、自分を信じて頑張ってください。

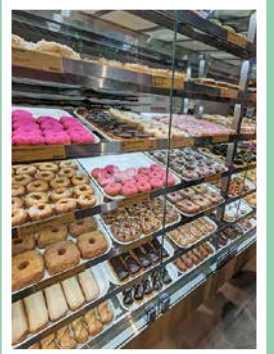
近況を教えてください！

#大阪万博



6月に行ったのでとても暑かったです。3日前に急遽チケットを取ったのですが、運よく有名なパビリオンを見ることができました。

#ドーナツ



LA発の「ランディーズドーナツ」が代官山にオープンしたので訪れました。東京はおしゃれなお店やカフェが多く、街を歩くだけで楽しいです。

#映画鑑賞



休日は映画館に行くことが多いです。上司や先輩に教えてもらった映画を観たあと、会社で感想を話すこともあります。

学びに集中できる
居心地の良い環境です

NAME: むらきののか
村木乃乃香さん
(修士課程2年)
HIGH SCHOOL: 白百合学園中学高等学校

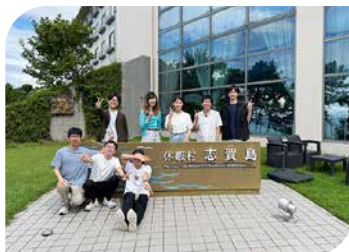
撮影場所…工学部列品館前

Q1 研究内容について教えてください

A. ソフトウェアを網羅的にテストする方法

ファジングと呼ばれるソフトウェアテスト手法に関する研究を行っています。ソフトウェアをどれだけ網羅的にテストできているかを示すテストカバレッジを高めることが、研究の主な目的です。ファジングの実行中に何が起きているのかを、さまざまな観点からグラフや表で可視化したり、先行研究を参考にしたりしながら、仮説を立て、それをもとに考案した手法を試しています。思うような結果が出ないことも多いですが、その際は指導教員や研究室の先輩に相談し、アドバイスをもとに軌道修正を重ねています。研究室の先輩・後輩・同期との関係も良く、一緒に食事に行ったり、研究や就職活動について相談し合ったりと、互いに支え合える環境です。

研究室がいくつか集まって、ワークショップを開催した時の写真。福岡県にある「休暇村 志賀島」に宿泊しました。



研究室のメンバーで、お疲れ様会と称してたこ焼きパーティーをしました。研究室はみんな仲が良かったです。



Q2 東京大学を選んだ理由は？

A. 挑戦してみたいと思ったから

正直に言うと、最初はそれほど深く考えていたわけではありませんでした。模試で志望校として書いてみたところ、思ったより良い判定が出て、「いけるかもしれない」と感じたのがきっかけです。理系科目を勉強するのが好きだったので、良い点数を取ることをモチベーションに勉強していました。しかし、現役では不合格となり、合格していた他大に進学するか、浪人するかで大きく悩みました。最終的には後悔しない選択をしたいと思い、浪人を決めました。浪人中に出会った仲間が存在が支えとなり、「この人たちと同じ大学に行きたい」という思いが、最後まで頑張る原動力になっていたと思います。

Q4 学科を選んだ理由

A. プログラミングの授業がきっかけ

進学選択では、理学部地球惑星物理学科を希望しました。当時は学びたい分野が明確に定まっておらず、前期教養で履修した授業の中から、少しでも興味を持ってそうな分野を選びました。しかし、進学後に自分の関心とは少しずれていると感じようになり、学部3年で初めて受けたプログラミングの授業が転機になりました。課題に取り組むなかで学ぶ楽しさを感じ、その後のインターンシップ経験も通して、情報系の分野により強い興味を持つようになりました。最終的に、大学院では情報系に分野を変更することを決めました。

Q5 東京大学に進学して良かったことは？

A. 周囲の人に恵まれていること

自分の好きなことや学びたいことに真剣に取り組んでいる人が多く、話を聞いているだけで自然と刺激を受けます。良い意味で、それぞれが自分の関心に正直に過ごしている雰囲気があり、居心地の良さを感じられます。高校時代は都内の女子校に通っており、似たバックグラウンドの友人が多い環境でしたが、東京大学に進学してからは、これまで出会ったことのないタイプの人と数多く出会いました。いわゆる“ガリ勉”というイメージを持たれがちですが、実際には真面目な人もいればそうでない人もいて、「東大生といえばこう」という典型はあまりないと思います。

Q6 情報系の魅力は？

A. 普段使っているものを理解できる

情報系の分野は、今の高校生にとって最も身近な分野の一つだと思います。スマートフォンやパソコンが1台あれば、さまざまなことができる時代です。普段使っているアプリやパソコンが、裏側でどのように動いているのかを学べるのが情報系の強みだと思います。プログラミングを学ぶことで、自分の手でアプリなどを作れることも、情報系ならではの面白さです。また、現実的な観点で見ても、情報系は就職先の選択肢が多く、待遇面でも恵まれている分野だと思います。

Q7 後輩へのメッセージをください

A. 焦らず、自分のペースで

「失敗した」「うまくいかなかった」と感じたことでも、後になって振り返ると、「あの経験が生きていた」「あそこで失敗してよかった」と思えることが意外とあります。大学受験は合格か不合格かという結果で評価されるため、不安になってしまうことも多いと思います。ただ、人生は思っている以上に柔軟で、必ずしも一つの結果ですべてが決まるわけではありません。気負いすぎず、焦らずに、今できることに取り組んでみてください。

近況を教えてください！

イギリス短期留学



ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンのサマースクールに参加しました。東京大学のWebサイトで募集を知り、応募しました。

大学の卒業式



東京大学の卒業式に母と一緒に記念写真を撮りました。袴を着用したのいい思い出です。

ランチ



本郷キャンパスの近くにあるおいしいフレンチのお店「ブティット・メゾン・ド・アリ」でランチを食べました。



東大のシンボル！

安田講堂

1925年に建てられた安田講堂は、重厚なゴシック調のデザインが特徴。2008年の改修で設備が一新され、伝統と機能美が融合した空間へと生まれ変わりました。正門からのびるイチョウ並木の先にそびえ立つ姿は圧巻。

本郷 キャンパス の歩き方

How to walk
Hongo campus

敷地面積は約56万1,351㎡で、東京ドーム約11個分！
自然あふれる本郷キャンパスの
おすすめスポットを
8つご紹介します。

私たちが
案内します！

Let's go!

左から、電子情報学専攻
(M2) 王力敏さん、コンピ
ュータ科学専攻 (M1) 古
賀友里愛さん、創造情報学
専攻 (D1) 望月文香さん。

※学年は2024年3月時点のもの。



国の重要文化財

赤門

正式名は「旧加賀藩上屋敷御守
殿門」といいます。1827年に加
賀藩主・前田斉泰の御守殿（正
室）のために建てられた格式高
い門で、江戸時代の大名屋敷の
名残が。現在は耐震診断のため
閉鎖中です。

秋のイチョウシーズンも
綺麗でおすすめ！



夏目漱石が由来

三四郎池

本郷キャンパスのオアシス、三四郎池。
正式には「育徳園心字池」といい、江戸
時代に加賀藩の庭園の一部として造られ
ました。夏目漱石の小説『三四郎』に登
場することから、この名で呼ばれるように。



建築界でも有名

内田ゴシック

昭和初期に建築家・内田祥三が手が
けた、重厚なゴシック調の建物群を
指します。特に有名なのが、このアー
チ型のトンネル。キャンパスを歩
けば、東大ならではのクラシカルな
魅力を随所で感じられます。

渋谷だけじゃない！

ハチ公像

渋谷駅前だけでなく、正門近くの農学
部（旧・獣医学部）の敷地内にもハチ
公像が。ハチ公の飼い主だった上野英
三郎教授は、獣医学科で教えていたこ
とから、この場所にもハチ公像が建て
られました。

8



実はここにもハチ公像
があったんです！



壮大な知の宝庫

総合図書館

約130万冊の蔵書を誇り、貴重な資
料の所蔵から研究者からも注目を集
める施設。関東大震災後の1928年に
再建され、近年の新図書館計画によ
り、別館やアジア研究図書館の整備
を経て、2020年にグランドオープン
しました。



学生の胃袋を支える

中央食堂

リーズナブルな価格で栄養バラ
ンスの取れた食事が楽しめる学
生食堂。なかでも人気は「赤門
ラーメン」。ピリ辛の餡が絡んだ
汁なし麺で、ここでしか食べら
れない限定メニュー！



本郷名物
赤門ラーメン



6

ここで
学んでいます



各席コンセントあり

講義室

学生たちが学ぶ講義室。内田ゴシック
の重厚な建物にありながら、内部は使
いやすく整備され、講義やゼミで活発
な議論が交わされています。大きな窓
から自然光が差し込み、開放的な雰囲
気も魅力。



5



情報系という選択

卒業生×在校生が語る、
学生時代と、その後のキャリア

卒業生
キャノン株式会社
ソフトウェア開発
宇野友季子さん
工学部電子情報学科 卒業
学際情報学府修士課程修了
(兵庫県立兵庫高等学校 出身)

在校生
工学部電子情報工学科
4年
澤田恵里さん
(桜蔭学園高等学校 出身)

卒業生
富士通株式会社
富士通研究所先端技術開発本部
マネージャー
高木紀子さん
工学部計数工学科 卒業
情報理工学系研究科システム情報学専攻
修士課程修了
(女子学院高等学校 出身)

「理系＝医学部」じゃなかった それぞれの進路選択

——まず、自己紹介からお願いします。

宇野さん 大学から東大に入って、学際情報学府で修士を取りました。専門は画像や動画の処理です。当時はディープラーニングがなかったので、ビデオから人を検出していました。卒業後はキャノンに就職しました。

澤田さん 工学部電子情報工学科4年です。東京都出身で、大学で東大にきました。理一（理科一類）から機械系に進んで、今はドローンの研究をしています。

高木さん 神奈川県出身で、実家から大学に通っていました。高校は女子校で、理一に入って、計数工学科、システム情報専攻、そのまま修士を取って、富士通に入社しました。専門はコンピュータアーキテクチャでした。今もCPUをつくることを仕事にしているので、大学での経験を活かしています。

——理系の進路として医学部も選択肢に挙がる中で、理一を選んだ理由を教えてください。

澤田さん 高校生の頃は医学部も考えていました。一方で、「技術屋さんってかっこいいな」と思う自分もいて、最終的に理一を選びました。今でも医学部が人気なのは、親が医者という家庭環境や、資格職としての安定感、子どもができた後も復帰しやすいというイメージがあるからかなと思います。

高木さん 単純に医学に興味がなかったです。ゲームが好きだったから、ゲームを作りたいという気持ちがありました。ただ、理一に入った時は、情報系に行くとは実は考えていなくて。当時はまだ情報系って未知な分野という感じだったと思います。

宇野さん 医者は単純に大変そうだなというイメージでしたね。うちは父親がパソコン好きで、家にMacがゴロゴロあって、中学生ぐらいから触っていました。なので何の抵抗もなくパソコンが好きで、理一に入った時点で情報系だなという感じでした。

——高校時代の友人たちは、どこへ進みましたか？

高木さん 理系の子たちの大半は薬学部、医学部、建築学部に行きました。情報というと、当

時は働く時のイメージがつきにくかったのかなと思いますね。

澤田さん 私の時代はAIブームとか情報系がトレンドになっていたので、もちろん医学に進む子も多かったのですが、情報が不人気という感じもなかったです。

——東大に行くとした時、周囲の反応はいかがでしたか？

澤田さん 後輩が親に「博士に行きたい」と言ったら、冗談で「(嫁に) 行き遅れるね」と言われたそうです。

高木さん 正直、このまま博士まで行ったら、自分は結婚できるんだろうか？と思ったタイミングはありました。大学はコミュニティが狭いので、出会いのために就職したほうがいいんじゃないかと（笑）。

澤田さん でも、周りを見ていると、修士を出るくらいで次々結婚していて。むしろ大学の男女比率の中では選び放題なんじゃないかと（笑）。

高木さん たしかに大学の女友達は皆結婚しました。むしろ女子校時代の友達のほうが結婚してない。結婚しなきゃいけないということでは全然ないんですけどね。「結婚できるだろうか」という心配も杞憂だったんだなと思いますね。

女子校・地方校から東大に入って 最初に感じたギャップ

——高木さんと澤田さんは女子校からの進学でしたが、ギャップは感じませんでしたか？

高木さん 男女の差はあまり意識していなかったのですが、カリキュラムの違いを感じましたね。電子回路に触ったことがある人や、ハンダゴテの





経験がある人が普通にいて、私は授業で全くやらなかったのに、技術的な経験の差を感じました。

宇野さん 私は共学だったんですが、中学の「技術」の時間には、ラジオの基盤にハンダ付けをしましたよ。

澤田さん 私はやったことがないので、私立女子校あるあるですかね？「情報」の時間もあったのですが、やはり男子校とのギャップを感じました。男子校だとサイエンス系の部活も活発で、賞を受賞したり、大学に入る前にすでに活躍をしていたりして、大学入学時点でこんなに差があるのか、と結構ショックを受けました。

——情報系はまだまだ女性が少ない分野です。人間関係はいかがでしたか？

高木さん 人間関係は、実はあまり困らなかったです。入ってすぐサークルに入って、そこで友達ができまし、最初はクラス制で始まるので、その中でも自然と仲良くなれました。学部に配属されて授業が始まってからも、少しずつ知り合いが増えていって、結果的に人間関係で大きな不安を感じることはなかったかなと思います。

澤田さん 私の少し前の世代から、女子をある程度まとめて配置するようになって、1クラスに5人は入るようになりました。その分、男子だけのクラスが増えたんですよ。

高木さん へえ〜！ 私や宇野さんの時代とは変わっていますね。

宇野さん 私も特に問題ありませんでした。共学出身で、どちらかというと女子同士の人間関係に苦手意識があったので、男子が多いのは気楽でしたね。

——宇野さんは、地方からの進学です。不安はありませんでしたか？

宇野さん 地方出身だと、そもそも上京すること自体にハードルを感じやすいと思います。私自身、最初は東大を受けるつもりはなくて、関西の大学に進もうと考えていました。先生に「東大に行けるんじゃない？」と言われて、受けてみただけ、という感じです。周りは京都大学か地方の医学部に進む人が多かったですね。

——ひとり暮らしはどうでしたか。

宇野さん 楽しかったです（笑）。ただ、親はやっぱり治安とかが心配だったみたいで、最初は学生しか入っていない下宿先を探してきて、そこに入ることになりました。門限があって、管理人さんもいる、女子専用の下宿です。

エンジニアは“手に職”。 子育て中でも働きやすい業界

——高木さんは働くママでもいらっしゃいます。IT業界の働き方はいかがですか？

高木さん 開発職なので、いわゆる“手に職”という感覚。それもあって、誰かに代わられて自分の居場所がなくなる、という危機感を持っていません。実際、出産後もスムーズに仕事に戻ることができまし、同じ部署でも多くの人が育休を経て復帰しています。評価基準もとてもシンプルで、そこに男女の差はほとんどありません。仕事ができるかどうか、それだけで評価される世界だと思います。

宇野さん IT系の大企業であれば、最近は育休の制度もかなり整っていると思います。周りを見ても、結婚や出産を理由に辞める人はほとんどいません。

澤田さん 育休でブランクがあることで、同期より出世が遅れることはありませんか？

高木さん 正直なところ、出産によるブランクはどうしてもあります。その期間は仕事から完全に離れるわけなので、それをなかったことにするのは難しい。綺麗事は言えないな、というのが正直な感覚です。

宇野さん 私は子どもがいないので、どちらかというと少し男性寄りの視点かもしれませんが、「会社にいなかった期間はブランクだね」とドライに捉える意見も理解できます。一方で、出産は女性にしかできないことなので、制度がなかったら少子化はますます進んでしまいます。そのバランスをどうするかが大事なかなと思いますね。

高木さん 産んでしまえばなんとかなるよ、というのが率直な意見です。キャリアという意味ではロスになる部分もありますが、社会全体で見れば大きなアウトプットでもある。子育ては大変ですが、人生を追体験しているような感覚もあって楽しいです。キャリアだけでは測れない価値があるような気がしますね。

「女子枠」に引け目を感じなくていい。 努力してきたことに自信を持って！

澤田さん お二人は女子枠についてどうお考えですか？ 女性だからいい企業にインターンできたと思われてしまうのが嫌で……。

高木さん 反発や嫉妬は生まれるでしょうが、比率を意図的に動かさなければ、大きな変化は起きない。大事なのは、「私は実力でここにいる」と自分が言い切れるかどうか。その強さを持つことなんじゃないかと思います。

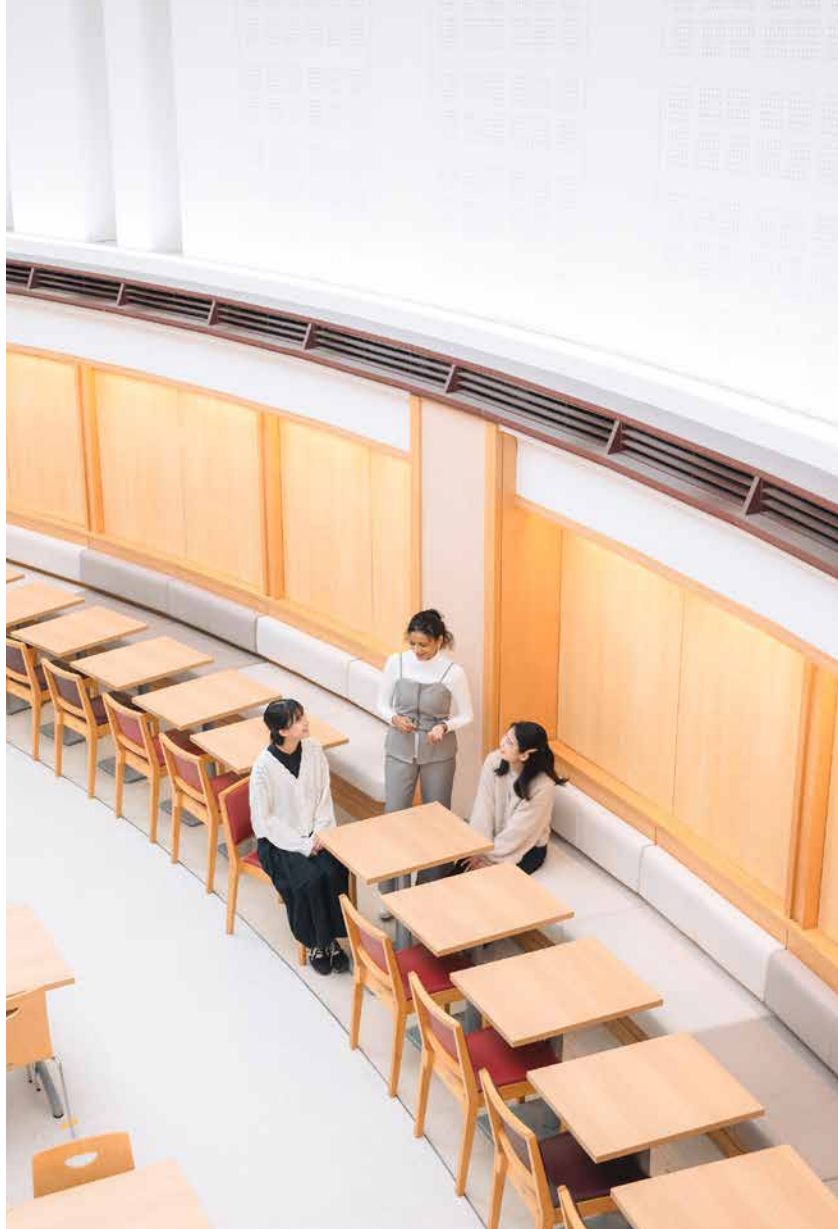
——自信はもともとありましたか？

高木さん いえ、なかったです。大学時代、あまり成績がよくなくて、研究もうまくいなくて悩んでいた時、計数時代の同期に、「やっぱ自信だよ。自信を持っておくことは重要なことだよ」と言われたんです。それが自分の中では大切な言葉になっていて。とはいえ自信を持てるようになるまでに10年以上はうんうん唸っていて、やっとそういう境地に達したという感じです。

——実力で男子に敵わない場面も出てきた時に、自信をなくしてしまう女子も多いような気がします。

高木さん 私が考える“人の力”は、「専門性・経験・情熱」の3つです。この中で、経験や情熱は性別と関係ありません。最初からスキルが完璧でなくても、情熱を持って入りたい人が経験を積める環境があったほうが、分野全体としては前に進むと思っています。「スキルが足りないから女子枠でしょ」と言われることもあります、それは違うと思います。入りたいという強い思いを持っている人は、入ってからいくらでもスキルを伸ばせる。だから、専門性がまだ十分でなくても、情熱のある人が入りやすい環境を意図的につくるのは、一つの有効な施策だと私は思っています。

——本日は皆さん、ありがとうございました！



東京大学大学院情報理工学系研究科

〒113-8656 東京都文京区本郷7丁目3番1号 ✉ ist_office@adm.i.u-tokyo.ac.jp 🌐 <https://www.i.u-tokyo.ac.jp/>

発行日／令和8年3月15日 発行元／情報理工学系研究科男女共同参画委員会